



# CiDER-PDP

Center for Infectious Disease Education and Research, Policy Discussion Paper

## PDP004

新型コロナウイルス・ワクチンの接種が

地方公共団体の信頼に与えた影響：

回帰不連続デザインによる検証

中山 一世，大阪大学

佐々木 周作，大阪大学

齋藤 智也，国立感染症研究所

大竹 文雄，大阪大学

新型コロナウイルス・ワクチンの接種が地方公共団体の信頼に与えた影響：  
回帰不連続デザインによる検証

中山一世<sup>1</sup> 佐々木周作<sup>2</sup> 齋藤智也<sup>3</sup> 大竹文雄<sup>4</sup>

要約

ワクチン接種により発症リスクが低下した人が社会の中に増えることで、社会の安心感や社会経済活動の活性化に繋がって、生活の質が向上することを人々は期待する。その期待に基づいて、人々はワクチン接種を円滑に進めた地方公共団体等をより信頼するようになる可能性がある。本研究は、Takahashi et al. (2022) の方法論を踏まえて、独自のパネル調査や調査項目の特色を生かしながら、新型コロナウイルス・ワクチンの一回目・二回目接種が地方公共団体や中央政府への信頼に与えた影響や外出行動に与えた影響を分析する。日本では65歳以上から優先接種が行われたことを操作変数として、ファジーな回帰不連続デザインによる分析を行ったところ、ワクチン接種を受けても中央政府への信頼は変化しないが、地方公共団体への信頼は接種前に比べて上昇することがわかった。また、ワクチン接種は外出を喚起するが、社会の感染状況の深刻さに応じて、接種者が実際に外出機会を増やすかどうかを調整している可能性を示唆する実証結果も得られた。

JEL 分類番号：I12, H40, C26, C90

キーワード：新型コロナウイルス感染症, ワクチン, 因果推論, 準実験, パネル・データ

最終更新日：2023年5月12日

---

<sup>1</sup> 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程 u584147a@ecs.osaka-u.ac.jp

<sup>2</sup> 大阪大学感染症総合教育研究拠点 ssasaki.econ@cider.osaka-u.ac.jp

<sup>3</sup> 国立感染症研究所感染症危機管理研究センター saitot16@niid.go.jp

<sup>4</sup> 大阪大学感染症総合教育研究拠点及び経済学研究科 ohtake@econ.osaka-u.ac.jp

本稿は、国際学術雑誌に投稿予定の内容を、準備段階のものとして日本語で執筆したものである。

本調査研究を実施するにあたって、佐々木はJSTより戦略的創造研究推進事業さきがけ(JPMJPR21R4)の支援を受けており、大竹はJSPSより学術研究助成基金助成金(20H05632)の支援を受けている。また、事前に大阪大学大学院経済学研究科倫理委員会に申請して審査を受け、承認を取得している。

## 1. イントロダクション

ワクチン接種は、新型コロナウイルス感染拡大防止策やパンデミックの出口戦略として有効であると位置づけられ、世界的に推進されてきた。接種により発症リスクが低下した人が社会の中に増えることで、人々の安心感や社会経済活動の活性化に繋がって、生活の質が向上することを人々は期待できる。その期待に基づき、人々はワクチン接種を円滑に進めた地方自治体等をより信頼するようになる可能性がある。

新型コロナウイルス・ワクチンの接種から実施団体への信頼の因果関係を検証するため、Takahashi et al. (2022) は、日本国内では 65 歳以上に対して優先接種が実施されたことを利用して、ファジーな回帰不連続デザイン (Fuzzy RDD) による分析を行っている。結果、二回のワクチン接種を受けることで地方公共団体の「ワクチン接種の順調さ」や「感染対策の十分さ」を高く評価するようになるが、中央政府に関する評価項目に違いはないことが分かったという。接種券の郵送や接種会場の手配等の業務を地方公共団体が担っていたことから、ワクチン接種によりこれらの業務の進捗が強く意識されて、地方公共団体への評価や支持が高まったのではないかと説明されている。

ただし、直接的にワクチン接種が実施団体への信頼に与える影響を検証した研究はまだ少ないことから、本稿では、ワクチン接種が「地方公共団体への信頼」を向上させたことを示すことで、Takahashi et al. (2022) の発見や解釈を補強する。また、政治支持向上の背景にあると考えられる、人々の生活の質の変化を「外出行動や意欲」の観点から検証する。

ここで、我々のデータの特徴を整理しておきたい。Takahashi et al. (2022) は、2021 年 8 月に 3 万名以上を対象に実施された大規模オンライン調査のクロスセクション・データを使用して、二回目接種の影響を分析している。我々のデータの標本サイズは約 4 千名だが、以下の特徴がある：

- ① ワクチン接種開始以前の 2021 年 1 月に最初のベースライン調査を行い、接種開始後の 5 月・6 月・7 月・8 月に 4 回の追跡調査を行って、パネル・データを構築している。
- ② 一回目接種と二回目接種の日付を記録している。
- ③ 世界価値観調査の形式に則り、地方公共団体や中央政府への信頼を各調査で測定している。
- ④ 性別・年齢・居住地域の観点で、住民基本台帳の人口分布に一致するように標本を割り付けて回収している。

## 2. 研究デザイン

### 2.1. 調査概要・設計

初回のベースライン調査は、マイボイスコム株式会社に委託するオンライン調査の形式で、接種開始前の2021年1月18日～22日の5日間に、日本国内に居住する60～74歳を対象に行った。調査会社に登録している日本全国の回答モニターを、男女の性別・5歳刻みの年齢層・10の地域区分（北海道、東北、北関東、南関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄）において住民基本台帳の人口分布に一致するように割り付けて、6,266名分の有効回答を回収した。

その後、合計4回の追跡調査（2021年5月21日～27日、6月23日～30日、7月21日～28日、8月27日～9月5日）を行って、一回目接種・二回目接種を受けたのかどうか、何月何日に接種を受けたのか等を把握しながら、全調査に参加した4,019名分の有効回答を回収した（追跡率64.1%）。追跡調査では、性別・年齢・地域に基づく元々の割付比率が変化しないように回収している。

### 2.2. 分析手法

ワクチン接種を受けるかどうかは個人が自分自身の希望を踏まえ自由に決められるものであるため、そのままでは地方公共団体の信頼に対する外生的な処置変数として使用できない。Takahashi et al. (2022) は、65歳以上の高齢者への優先接種が日本全国で行われたことに基づき、65歳以上かどうかを操作変数としてファジーな回帰不連続デザインで推計することでこの課題に対処しており、本稿もこの対処方法に準ずる。65歳以上かどうかという優先接種のための閾値は、「2022年4月1日迄に65歳の誕生日を迎えているか」で決まっていた。65歳の誕生日を実際に迎えることで受給資格が得られる年金や介護保険等の他の社会保障制度とは独立しているため、ぎりぎり優先接種の対象年齢であることはワクチン接種を通してのみ信頼に影響を与えられ、除外制約は満たされる。推定には、Calonico et al. (2014) が提案した平均二乗誤差最適バンド幅 (The mean square error optimal bandwidths, 以後はCCTバンド幅と呼ぶ) とロバスト信頼区間を持つノンパラメトリック局所二次回帰を使用する。

### 2.3. 推定モデル

一段階目の回帰式は以下のように表される。

$$Vaccine_i = \alpha_1 + \beta_1 I\{d_i \geq 0\} + f_{1l}\{d_i < 0\} + f_{1r}\{d_i > 0\} + \varepsilon_i$$

また、誘導型は以下の通りである。

$$Y_i = \alpha_2 + \beta_2 I\{d_i \geq 0\} + f_{2l}\{d_i < 0\} + f_{2r}\{d_i > 0\} + \varepsilon_i$$

ここで、 $Vaccine_i$ は、回答者  $i$  の一回目または二回目のワクチン接種の有無を表す。 $d_i$ は、優先接種の閾値である 2022 年 4 月 1 日を基準値(0 日)とした日齢を表す操作変数である。

$I\{d_i \geq 0\}$ は、優先接種対象者であれば 1 をとる関数であり、関数 $f_{1l}(\cdot)$ と $f_{1r}(\cdot)$ はそれぞれ閾値の左側と右側の関数を表している。 $Y_i$ は、地方公共団体等に対する信頼や外出行動というアウトカム指標である。ここでは、パネル・データであることを活かして、追跡調査におけるアウトカム指標とベースライン調査におけるアウトカム指標の差分を使用して、ベースライン調査のアウトカム指標の個人間のばらつきをより直接的に考慮する。共変量として、居住する都道府県のワクチン供給量に加えて、居住する都道府県で緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が発生しされていたかどうかを含んでいる。

アウトカム指標については、まず、世界価値観調査の形式に則り、「あなたは次にあげる組織や制度をどの程度信頼していますか?」という質問の下で、地方公共団体や中央政府等に対する信頼を、「全く信頼していない (1)」から「非常に信頼している (5)」の 5 段階で把握している。次に、公共交通機関の利用頻度等の 10 項目の外出行動を、最近 1 週間の内に「一度もしなかった (0)」から「ほぼ毎日した (7)」の 8 段階評価で把握し、10 項目の平均値を用いる。併せて、コロナ禍の終息後に同項目の外出行動をどのくらい行いたいかという「将来の外出意向」も把握して分析に用いる。

### 3. 結果

#### 3.1. 記述統計

分析対象標本となる 4,019 名の内、ワクチンの優先接種対象者は 3,069 名、非対象者は 950 名であった。表 1 は全回答者の記述統計量である。次に、表 2 には、CCT バンド幅によって選択される分析標本数に近いものとして、優先接種の閾値から前後 2 年（1955 年 4 月 1 日～1959 年 4 月 1 日生まれ）の回答者に限定して、記述統計量をまとめた。閾値付近の回答者は合計で 1,017 名であり、その内、優先接種対象者は 537 名、非対象者は 480 名であった。

ワクチンの接種率は、一回目・二回目ともに優先接種対象者の接種率が高くなっている。表 2 より、閾値付近の回答者に限定すると、就業率以外の個人属性には統計的に有意な差は観察されないことが分かる。地方公共団体への信頼等のアウトカム指標についても統計的に有意な差は見られないが、信頼の数値自体は非対象者の方が若干高くなっていることも分かる。

#### 3.2. 一回目接種が信頼に与える影響

表 3 は、優先接種の対象であったことで新型コロナウイルス・ワクチンの一回目接種を受けたことが、地方公共団体と中央政府への「信頼」に与えた影響の推定値を示している。一回目接種の分析には、その接種率が優先接種対象者と非対象者の間で大きくなった 6 月調査のデータと 1 月のベースライン調査のデータを用いている。(1) (2) 列は、Calonico et al. (2014) が提案したロバストな信頼区間を使用した局所二次回帰の推定値と標準誤差である。また、(a) (c) 行は 6 月と 1 月の信頼の差分を使用した回帰、(b) (d) 行は 6 月の信頼レベルを使用した回帰の結果である。

(a) 行の差分回帰の結果から、一回目接種で地方公共団体への信頼が 0.622 ポイント程度上昇しており、統計的に有意である ( $p < .05$ ) ことがわかる。(b) 行のレベル回帰では統計的に有意な上昇は観察されないが、推定値自体は正の値を取っている。差分回帰のみで有意差が見られた理由として、優先接種の対象者の 1 月時点の信頼が非対象者よりも若干低かったこと、その 1 月時点で低い信頼を示していた高齢者が優先接種によって信頼を上げたことが影響していると考えられる。地方公共団体の結果に対して、一回目接種が中央政府の信頼を有意に上昇させるという結果は差分回帰・レベル回帰のどちらにも見られない。

#### 3.3. 二回目接種が信頼に与える影響

表 4 は、優先接種の対象であったことで二回目接種を受けたことが、地方公共団体と中央政府への「信頼」に与えた影響の推定値を示している。二回目接種の分析には、その接種率が優先接種対象者と非対象者の間で大きくなった 7 月調査のデータと 1 月のベースライン調査のデータを用いている。7 月調査時点では、東京都・沖縄県が緊急事態宣言を発出していた。

二回目接種の結果の傾向は一回目接種と同様である。(a) 行の差分回帰では、二回目接種で地方公共団体への信頼が 0.716 ポイント上昇しており、これも統計的に有意である ( $p<.05$ )。 (b) 行のレベル回帰では統計的に有意な上昇は見られないが、推定値はやはり正の値を取っている。アウトカム指標の中身自体が異なるので直接比較は困難だが、8月調査のデータを使用して二回目接種の影響を分析した Takahashi et al. (2022) のレベル回帰の推定値の方向性とも一致している。

### 3.4. 社会経済属性による異質性

ワクチン接種による政治支持の上昇は、教育水準・経済水準等の社会経済属性が低い人々の中で生じやすい可能性が先行研究で議論されている。その背景には、社会経済特性が低い人には政治の情報制約があり (Angelucci and Prat, 2023)、情報制約がある人は利益を享受できることで政治知識を更新し政治支持を上昇させるという (Rogoff, 1990; Manacorda et al., 2011)。このような傾向が、本研究のデータでも観察されるのかどうかをサブサンプル分析で確認する。ここでは差分回帰の結果を紹介する。

第一に、教育水準 (大卒未満かどうか) によって、ワクチン接種が地方公共団体の信頼に与える影響が異なるか調べる。図 1 は、教育水準によるサブサンプル分析の推定結果を、95%信頼区間と共に示している。仮説通りに、大卒未満グループで、一回目接種により地方公共団体への信頼が 0.96 ポイント上昇している ( $p<.05$ )。統計的有意性は下がるものの、二回目接種でもほぼ同程度の影響が見られた ( $p=0.055$ )。一方で、大卒グループでは同様の傾向は見られなかった。

第二に、経済水準 (家計収入が少ないかどうか・金融資産が少ないかどうか) によって、ワクチン接種が地方公共団体の信頼に与える影響が異なるか調べる。Takahashi et al. (2022) でも収入情報に基づくサブサンプル分析を行っているが、65歳の閾値前後で就業率に差があり、就労による収入差が生じる可能性を考慮して、就業率との相関が相対的に小さいと考えられる金融資産についても分析を行うことにした。年間の家計収入と金融資産について中央値以下・中央値超で分類するとともに、「答えたくない・わからない」と答えた回答者は不明として分類した。図 2・図 3 から、家計収入や金融資産が中央値未満のグループで、一回目接種によって地方公共団体への信頼が 1.13~1.30 ポイントも上昇していることが分かる。

最後に、図 4 から、一回目接種により女性の地方公共団体への信頼が 1.31 ポイント上昇し ( $p<.05$ )、二回目接種では 1.03 ポイント上昇しているが ( $p<.05$ )、男性では有意な変化が観察されなかった。アウトカム指標の中身自体が異なるので直接比較はやはり簡単ではないが、サブサンプル分析の結果の傾向は Takahashi et al. (2022) と一致している。この先行研究はサンプリングの結果として女性比率が住民基本台帳の比率よりも小さくなっていった。信頼や政治支持の上昇が主に女性で生じていた結果を踏まえると、日本社会におけるこの年代の平均的な上昇幅は、先行研究で報告された程度よりも大きかった可能性がある。

### 3.5. 外出行動・意向に与える影響

ワクチン接種を受けることで地方公共団体への信頼が高まるのは、ワクチン接種により社会経済活動が活性化されて、人々の生活の質が向上することが期待されるからだと考えられる。Takahashi et al. (2022) は二回目接種で人々の外出行動が実際に促進されたのかを検証しているが、調査時期である 2021 年 8 月は全国的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出されていたことの影響からか外出行動の促進効果は観察されていない。本研究の 6 月調査時点(6 月 23 日～30 日)では沖縄県を除いて緊急事態宣言は解除されていたが、7 月調査時点(7 月 21 日～28 日)では発出されている。発出された時期とそうでない時期の両方を含む調査であることを踏まえて、改めて外出行動への影響を検証する。

表 5・表 6 の (a) (b) は「外出行動」をアウトカム指標に用いた推計結果である。3.1 節・3.2 節と同様に、一回目接種が 6 月調査時点の外出行動に与える影響を、二回目接種が 7 月調査時点の外出行動に与える影響を分析している。表 5 のレベル回帰から、一回目接種が総合指標としての外出行動の水準を 0.490 程上昇させていることが分かる ( $p<.05$ )。差分回帰から増加効果は観察されなかったが、外出行動には 1 月調査を行った冬季と追跡調査の夏季で同一個人内であっても行動パターンが異なるものがあり、そのことが結果に影響している可能性がある。電車やバス等の公共交通機関の利用のように季節の違いの影響を受けにくい個別の外出項目を用いて分析すると、差分回帰からも一回目接種が外出を促進した効果が観察された。

一方で、表 6 からは、7 月調査時点の外出行動を二回目接種が促進した傾向は観察されない。先行研究で説明されたように、社会の感染状況の悪化を受けて、接種を受けた人たちは外出行動が増加しないように調整したのかもしれない。図 5 に見られるように、感染者数は 7 月初旬頃から増加傾向にあり、7 月 12 日には東京都が緊急事態宣言を発出している。

外出行動は促進されなくても、外出意向は強化されている可能性がある。表 5・表 6 の (c) (d) (e) は、コロナ禍の終息後に外出行動をどの程度行いたいかという「将来の外出意向」をアウトカム指標に用いた推計結果である。表 5 より、外出行動を実際に促していた一回目接種は、意向に対しては統計的に有意な効果を持たない。(e) より、意向と行動の差が見られないことから、6 月調査時点の「将来の外出意向」とギャップが無い程度に、実際に外出行動を増加させたと解釈できる。

一方で、表 6 より、外出行動の促進効果を持たなかった二回目接種は、レベル回帰で将来の外出意向を増幅させる効果を示している。その結果として、意向と行動の間に大きな差が生じており、7 月調査時点の「将来の外出意向」の水準までは接種者が外出行動を増加させなかった傾向が読み取れる。

以上を踏まえると、ワクチン接種は外出を喚起するが、社会の感染状況の深刻さに応じて、接種者は実際に外出行動を増加させたり、あるいは意向は強まっても行動に反映させないように調整したりしている可能性があることが分かった。



#### 4. 小括

本研究では、ワクチン接種が中央政府や地方公共団体の信頼に与える影響を調べるため、日本の高齢者に対する優先接種を利用してファジーな回帰不連続デザイン分析を行った。3.2 節・3.3 節では、ワクチン接種によって「地方公共団体への信頼」が上昇することを示した。信頼変数を直接的に使用していること、また一回目接種、二回目接種ともに同様の影響が見られたことから、Takahashi et al. (2022) の発見や解釈を補強する結果が得られたと考えている。3.4 節では、社会経済属性に基づくサブサンプル分析を行い、本研究のデータにおいても、脆弱な社会経済属性を持つ人の中で接種から信頼への影響が強く観察されることを確認した。最後に、3.5 節ではワクチン接種が生活の質の向上に寄与するのかどうかを外出行動の観点から分析し、外出行動またはその意向が増加することを確認した。

いずれの分析でも、主に 65 歳以上の一回目接種が行われた 2021 年 6 月と、二回目接種が行われた 7 月に分けて接種の影響を分析した。分析結果と社会の感染状況の対応関係を確認しながら進めているが、検証の余地はまだ残っているため、今後も追加分析を行う予定である。

## 参考文献

- Angelucci, C., & Prat, A. (2023). *Is Journalistic Truth Dead? Measuring How Informed Voters Are about Political News*. <https://doi.org/10.2139/ssrn.3593002>
- Calonico, S., Cattaneo, M. D., & Titiunik, R. (2014). Robust nonparametric confidence intervals for regression-discontinuity designs. *Econometrica: Journal of the Econometric Society*, *82*(6), 2295–2326.
- 厚生労働省, 2022. データからわかる – 新型コロナウイルス感染症情報 – . (<https://covid19.mhlw.go.jp/>) 2022年10月30日参照.
- Manacorda, M., Miguel, E., & Vigorito, A. (2011). Government Transfers and Political Support. *American Economic Journal. Applied Economics*, *3*(3), 1–28.
- 内閣官房, 2023. 新型コロナウイルス感染症対策. (<https://corona.go.jp/emergency/>) 2023年4月6日参照.
- Rogoff, K. (1990). Equilibrium Political Budget Cycles. *The American Economic Review*, *80*(1), 21–36.
- Takahashi, M., Takaku, R., Ashida, T., & Ibuka, Y. (2022). Vaccination under the pandemic and political support. In *bioRxiv*. <https://doi.org/10.1101/2022.02.13.22270703>

表1 全回答者の記述統計量

	全回答者		優先接種対象者 (65歳以上)		非対象者 (65歳未満)		対象者と非対象者の差分
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
ワクチンの一回目接種率	0.86	0.35	0.89	0.31	0.76	0.43	0.132***
ワクチンの二回目接種率	0.81	0.39	0.87	0.33	0.61	0.49	0.262***
個人属性：							
女性	0.53	0.50	0.52	0.50	0.54	0.50	-0.014
大卒	0.45	0.50	0.44	0.50	0.49	0.50	-0.052***
就業	0.36	0.48	0.30	0.46	0.56	0.50	-0.268***
世帯年収中央値超	0.23	0.42	0.20	0.40	0.32	0.47	-0.118***
世帯年収不明	0.17	0.37	0.17	0.38	0.15	0.35	0.027**
金融資産中央値超	0.20	0.40	0.18	0.38	0.28	0.45	-0.102***
金融資産不明	0.32	0.47	0.33	0.47	0.28	0.45	0.049***
アウトカム指標のベースライン (2021年1月時点)：							
地方公共団体への信頼	3.00	0.87	3.00	0.87	3.02	0.90	-0.022
政府への信頼	2.61	1.02	2.60	1.02	2.62	1.01	-0.011
観測数	4,019		3,069		950		

Note: ワクチンの一・二回目接種率は追跡調査による最終的な接種率、個人属性は初回調査の値を示す。p\* $<$ 0.1; p\*\* $<$ 0.05; p\*\*\* $<$ 0.01

表2 閾値前後2年の回答者の記述統計量

閾値前後2年の回答者	優先接種対象者 (65歳以上)		非対象者 (65歳未満)		対象者と非対象者の差分
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
ワクチンの一回目接種率	0.87	0.34	0.75	0.43	0.117***
ワクチンの二回目接種率	0.85	0.36	0.62	0.49	0.224***
個人属性：					
女性	0.498	0.5	0.499	0.501	-0.001
大卒	0.52	0.50	0.52	0.50	-0.003
就業	0.47	0.50	0.55	0.50	-0.078**
世帯年収中央値超	0.27	0.45	0.29	0.45	-0.018
世帯年収不明	0.17	0.38	0.14	0.35	0.032
金融資産中央値超	0.24	0.43	0.26	0.44	-0.012
金融資産不明	0.30	0.46	0.27	0.45	0.027
アウトカム指標のベースライン (2021年1月時点)：					
地方公共団体への信頼	2.94	0.88	3.03	0.90	-0.09
政府への信頼	2.59	1.01	2.63	1.01	-0.038
観測数	537		480		

Note: ワクチンの1、2回目接種率は追跡調査による最終的な接種率、個人属性は初回調査の値を示す。

p\* $<$ 0.1; p\*\* $<$ 0.05; p\*\*\* $<$ 0.01

表3 一回目接種が信頼（6月調査時点）に与える影響

	局所二次回帰		
	係数 (1)	標準誤差 (2)	CCTバンド幅 (3)
<b>地方公共団体への信頼：</b>			
(a)差分回帰	0.622**	0.303	854.661
(b)レベル回帰	0.354	0.301	771.266
<b>中央政府への信頼：</b>			
(c)差分回帰	0.177	0.354	836.908
(d)レベル回帰	-0.251	0.420	890.327

Note: p\* < 0.1; p\*\* < 0.05; p\*\*\* < 0.01

表4 二回目接種が信頼（7月調査時点）に与える影響

	局所二次回帰		
	係数 (1)	標準誤差 (2)	CCTバンド幅 (3)
<b>地方公共団体への信頼：</b>			
(a)差分回帰	0.716**	0.337	790.864
(b)レベル回帰	0.270	0.349	666.177
<b>中央政府への信頼：</b>			
(c)差分回帰	0.259	0.316	889.131
(d)レベル回帰	-0.217	0.377	911.851

表5 一回目接種が外出行動・意向（6月調査時点）に与える影響

	局所二次回帰		
	係数 (1)	標準誤差 (2)	CCTバンド幅 (3)
<b>外出行動：</b>			
(a)差分回帰	0.160	0.182	852.853
(b)レベル回帰	0.490**	0.233	852.184
<b>将来の外出意向：</b>			
(c)差分回帰	-0.074	0.404	694.876
(d)レベル回帰	0.230	0.448	826.751
<b>外出意向と行動のギャップ</b>			
(e)意向－行動	-0.258	0.409	812.067

Note: p\* < 0.1; p\*\* < 0.05; p\*\*\* < 0.01

表6 二回目接種が外出行動・意向（7月調査時点）に与える影響

	局所二次回帰		
	係数 (1)	標準誤差 (2)	CCTバンド幅 (3)
<b>外出行動：</b>			
(a)差分回帰	-0.040	0.201	609.807
(b)レベル回帰	0.351	0.259	628.978
<b>将来の外出意向：</b>			
(c)差分回帰	0.596	0.444	597.073
(d)レベル回帰	1.145**	0.460	690.071
<b>外出意向と行動のギャップ</b>			
(e)意向－行動	0.714**	0.332	765.861

Note: p\* < 0.1; p\*\* < 0.05; p\*\*\* < 0.01

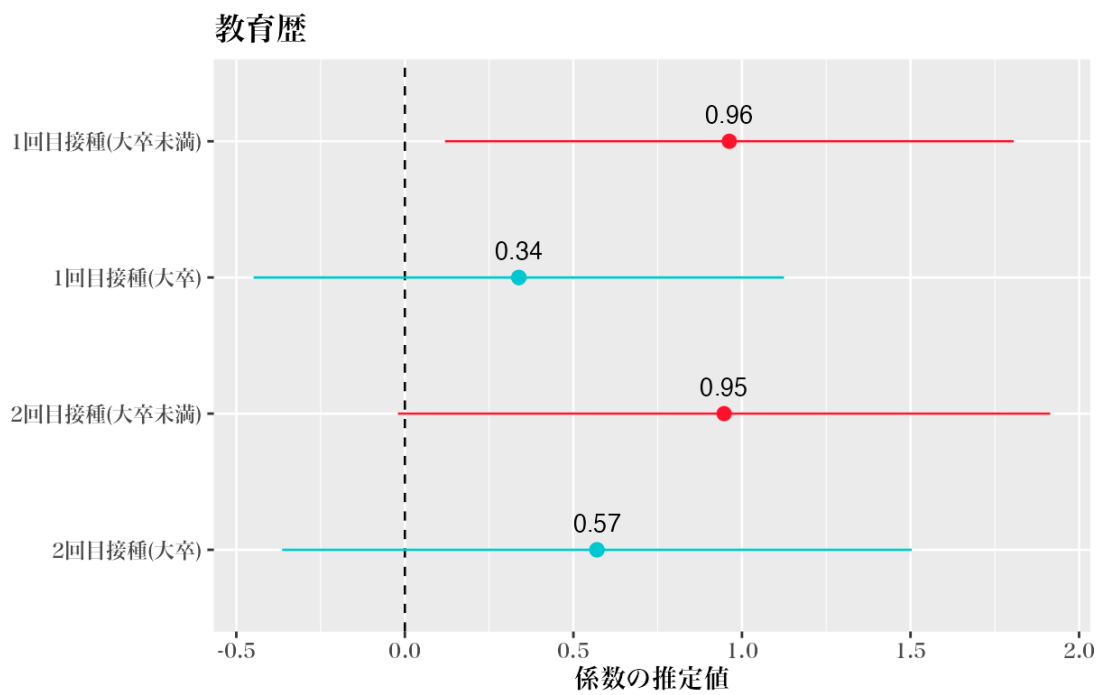


図1 ワクチン接種が地方公共団体の信頼に与える影響（教育歴別）

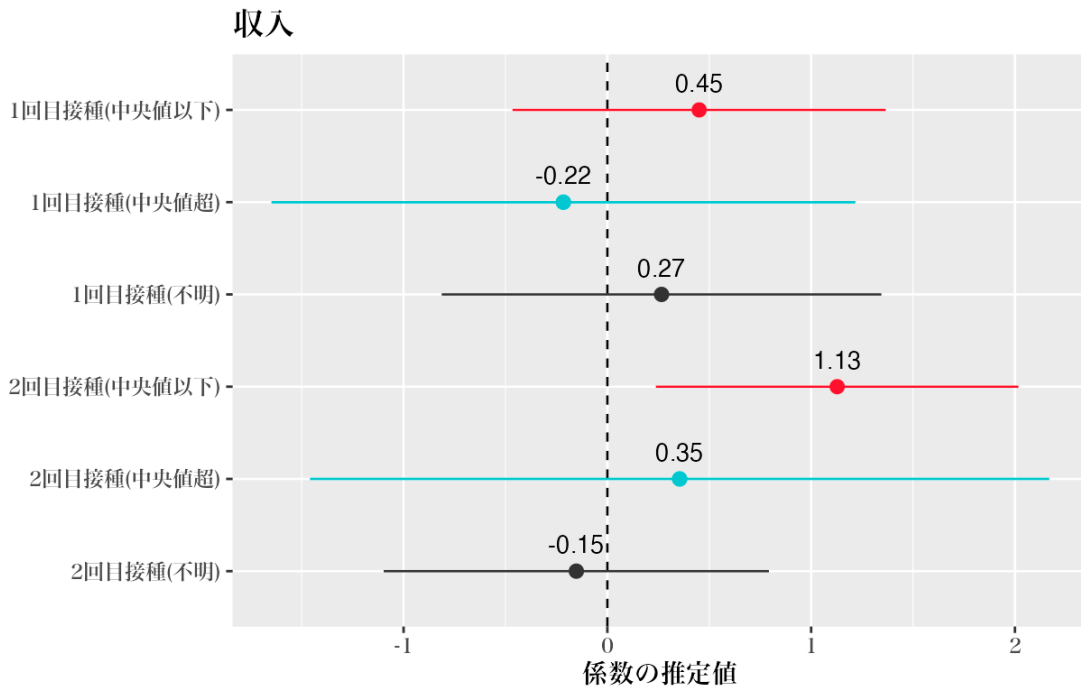


図2 ワクチン接種が地方公共団体の信頼に与える影響（家計収入別）

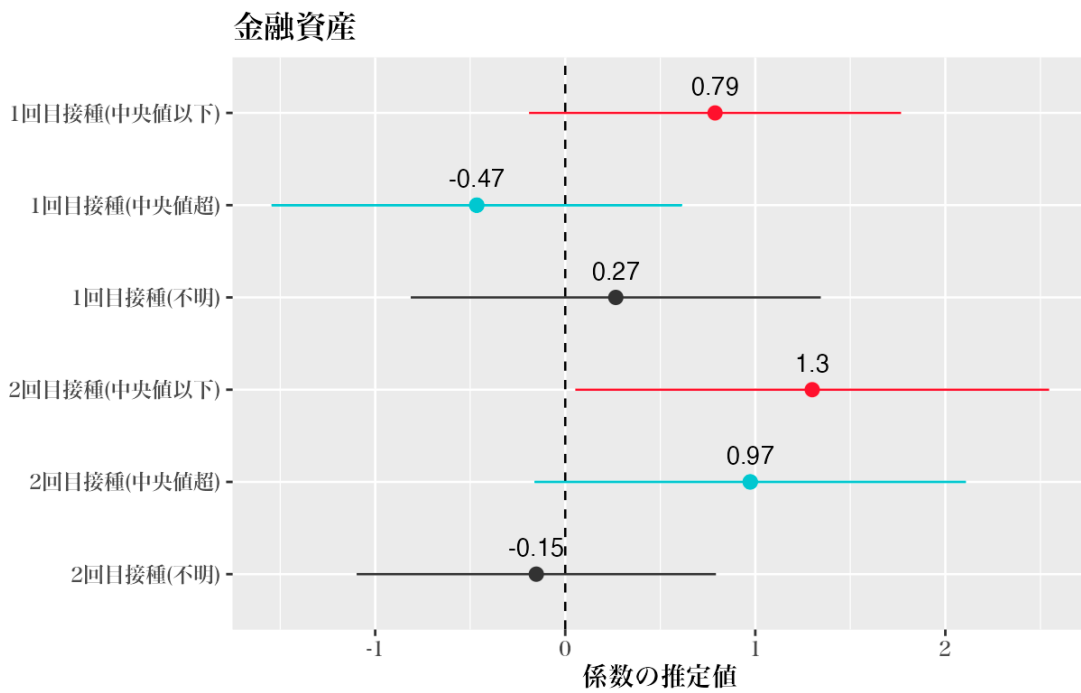


図3 ワクチン接種が地方公共団体の信頼に与える影響（金融資産別）

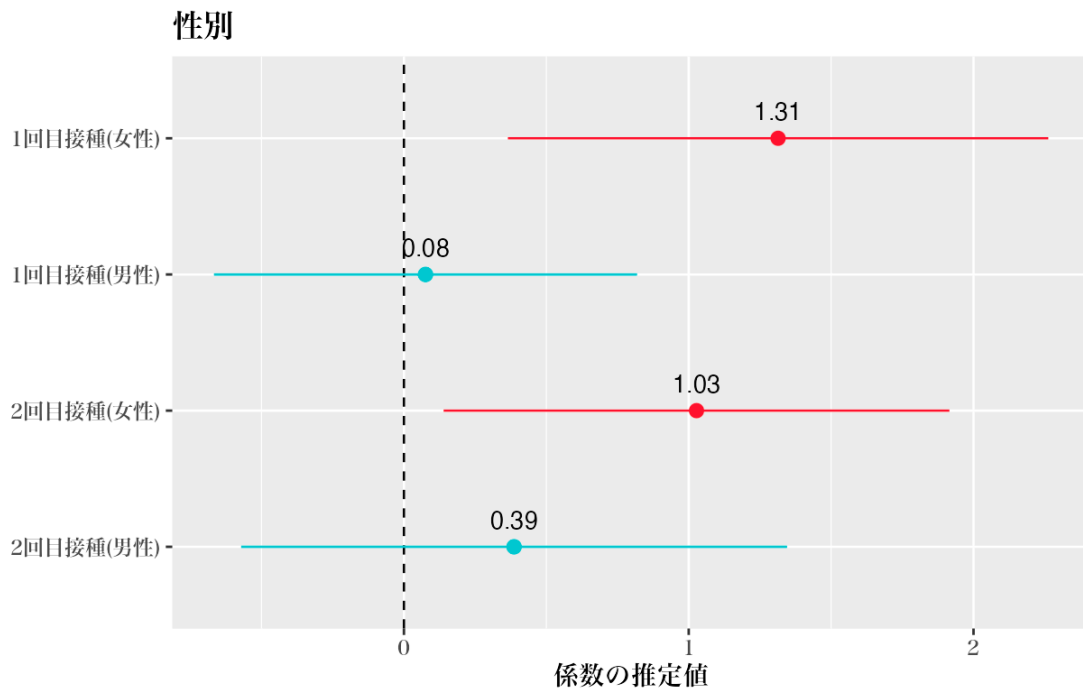
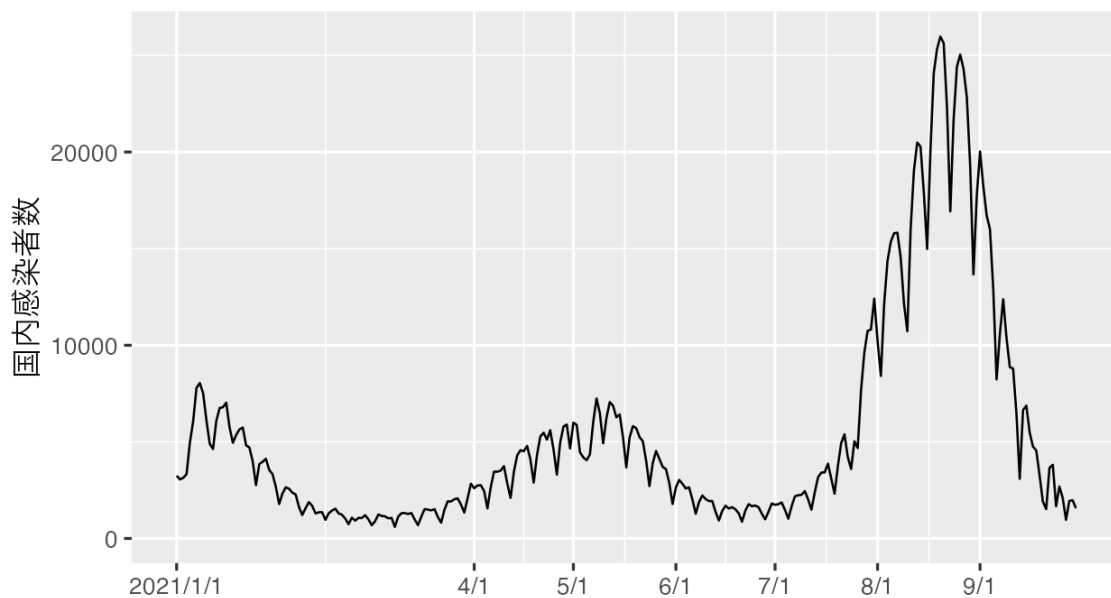


図4 ワクチン接種が地方公共団体の信頼に与える影響（性別）





**図5 調査期間における感染者数推移**

備考：厚生労働省. (2022), データからわかる－新型コロナウイルス感染症情報－. (<https://covid19.mhlw.go.jp/>) より取得したデータを元に作成.